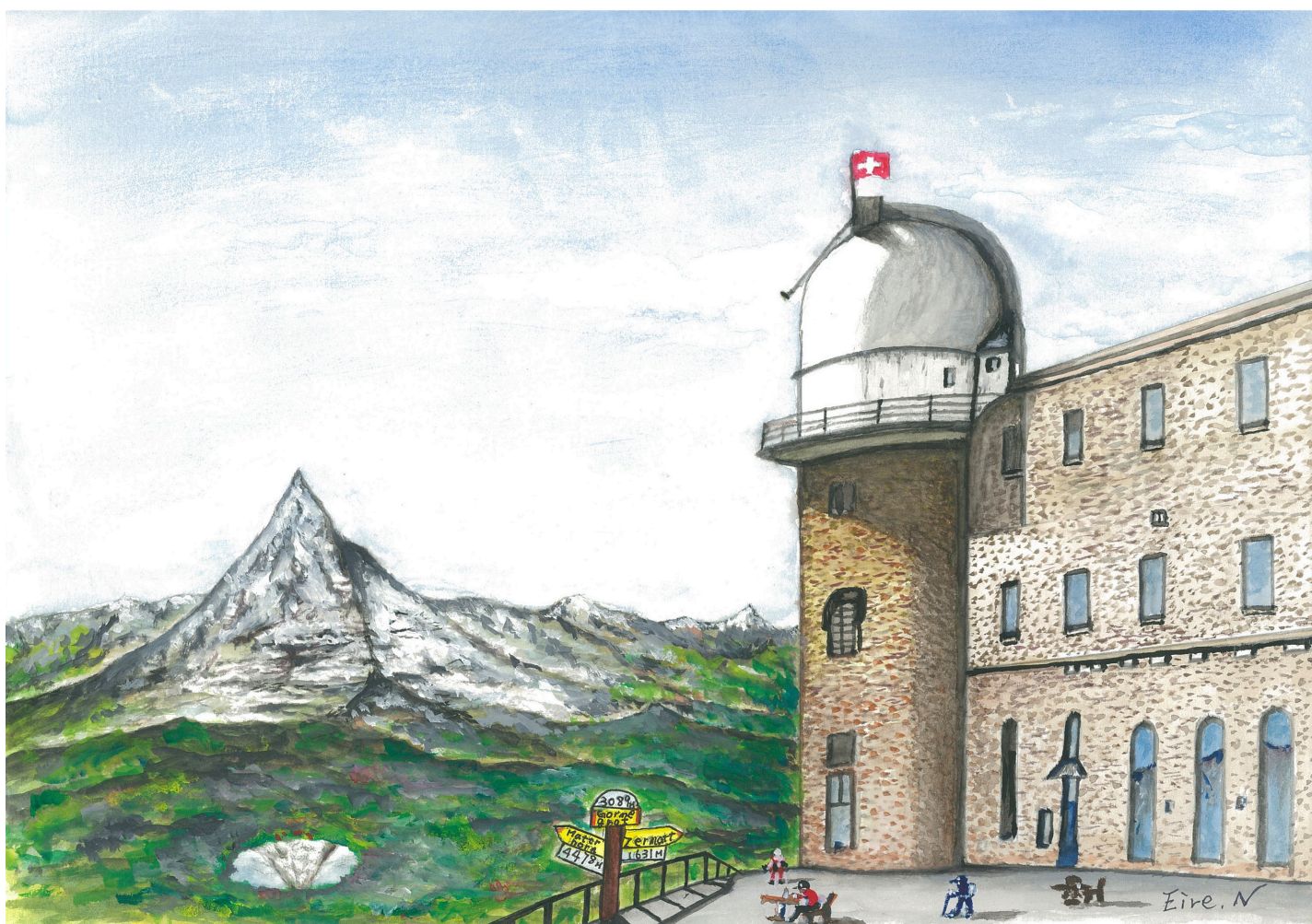


マザーハウス

たより

**あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。**



絵：エイルさん

2023

12 月号

- | | |
|---------------|----------------|
| 2 理事長挨拶 | 14 研究室からこんにちは! |
| 5 塀の中のたより | 16 福音たより |
| 10 ささきみつおコーナー | 22 HAPPY DAYS |
| 12 健康相談窓口 | 23 お知らせ |

理事長挨拶

夏が去り、秋をすっ飛ばして冬が来たというのが、私の今年のイメージです。非常に健康管理をはじめ、服装についても難しいと思います。健康にはくれぐれもお気を付けてください。

さて、いくつかご指摘をいただいております。

1. 加害者支援という表現について

私がこの表現を使用した理由は、受刑者と旧受刑者双方を含んだ表現という意味で使用したのですが、違法薬物の使用や未遂事件で受刑した場合、誰に加害したわけでもないというご指摘をいただきました。特に薬物に関しては、「唆されてやってしまった」「中毒による苦しみ」など被害者的な側面もあるという考えにいたりました。今後はマザーハウスの支援対象者＝当事者と考え、「当事者」という表現に変更させていただきます。

2. 高齢となった無期または長期の受刑者について

体も動かなくなった彼ら（ご指摘では75歳以上くらい）に、これ以上過酷な懲役を続けるのは、いかがなものかという内容です。難しい問題です。これには多くのご意見、角度からの見方があるでしょう。

① 実際に、そういう人たちとともに生活している受刑者
 ※ご指摘くださった方はここに属します。

② 人権重視で見る人

③ 法律重視で見る人

④ 被害者やその家族重視で見る人

まだあると思いますが、少し考えただけでもこれだけ出てきます。その中でも希少かつ重要なものは、①ではないかと思えます。②～④は発信を妨げるものはないからです。これらの意見は、思い出せなくても、何となく聞いたことがあるのではないのでしょうか？

対して①は、なかなか世に出ません。さらに実際に現状を見、接している人の意見とも言えます。刑務官の人もそういう部分はあると思いますが、どうしても国に仕える身として、当事者ほど純粹に見ることは、できないでしょう。感情を押し殺し続け麻痺してしまっている人もいるかもしれません。「たより」は、そんな状況を発信できる貴重な媒体とも言えるでしょう。

そこで、この件に関して、意見や状況をレポートした方は、私宛に手紙をいただければと思います。封筒には「高齢の無期について」と書いてくれれば助かります。

ある程度の範疇に分けて、問題提起として掲載をしたいと思っけています。ただし、当事者の思い通りになるとは限りません。なぜなら②④の人たちとともに取り組む問題だからです。法律の提案は高官がしますが、決定権者は立法院たる国会です。彼らを動かすのは②④の人の意見であり票の力です。そのためのご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

さて、話は変わって当事者の支援について多くの考え方があると思います。その中で、当法人が声高に謳っているのは、犯罪の温床除去、再犯防止、当事者の更生、社会復帰です。話はそれますが、更生という言葉にもご指摘をいただきましたが、広く認知されイメージしやすい人が多いと判断し、そのまま使用させていただきました。話は戻りますが、今挙げました中でも解釈が分かれる可能性はあります。

そこで、マザーハウスのスタンスを改めて説明します。法律を熟知させ犯罪にならないよう助言する、バレないように法律を違反することを助言する、犯罪を強引にもみ消して無罪にする、以上を犯罪の「温床除去、再犯防止」とは一切考えていません。また、すぐに再犯をするのではと予測できる人を、ただ就職させて社会復帰したものとすると、そのようなことを「当事者の更生、社会復帰」などとは一切考えておりません。たまたま再犯しなくてもです。汚れている壁を白く塗って、「清潔な壁ですね」

などということとは、一切いたしません。私たちの考えや支援は、汚れた壁の汚れを落とす手伝いをするということです。軸となる思考、習慣を犯罪とは関係ない方向に向いてもらせるようにすることです。その人の心から出た実が行動となって現れると考えるからです。禁止事項を伝えるだけでは、ダメなのです。なぜ禁止なのかを知らなければ、「バレない不正は賢い」とか、倫理を無視したりしかねません。

すべての法律は元をただせば「愛」から出たものだと思います。例えば、飲酒運転が違反なのは、犠牲者を出しやすいからであり、人に対する愛からと言えないでしょうか。もちろん自分への愛も含まれています。これはすべての交通ルールに当てはまるでしょう。決して国庫を豊かにするための物ではありません。そのようなこととすれば、行使する人間の軸の思考の問題です。

私は何度も「たより」で申し上げており「もう飽きた」と言われても何度でも言います。マザーハウスは愛の団体であり、愛を伝え、継承していく団体です。軸は愛です。

ところで、受刑者支援に関連してでしょうか「刑が軽くなるよう助けて欲しい」「自分の冤罪を証明する助けをしてほしい」という類の問い合わせが、たまにあります。このような問い合わせについては、当法人において、直接対応はできません。理由は以下です。



特定非営利活動法人マザーハウス

理事長 原田 昇

当法人は受刑中の人や出所した人の（前述の通り）更生を手伝うことが目的です。量刑を軽くすることなどは、その対象ではありません。実際に冤罪であったり、不当な訴えもあるかもしれません。当法人にそれが真実かを見分け、判断する能力はありません。無知な行動は、壁を白く塗ることに加担する可能性もあるとも考えています。そこで、そのような人は、別の人権団体などを頼っていただくことをお勧めします。

最後に、財務的にマザーハウスの活動が大変厳しくなってきました。恐れ入りますが、皆様にこの場を借りて、ご寄付のお願いをさせていただきます。ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。神の祝福が皆様にありますように。よいお年をお迎えください。

MLP からのお願い

文通ボランティアの皆様へ

- 文通相手が決まった後、手紙がこないという受刑者さんが少なくありません。ご連絡がないまま途絶えてしまうと、社会との交流が極めて少ない受刑者さんを傷つけてしまう可能性があることを、ご考慮ください。何かの理由でお手紙が出せない時は、その旨をハガキに書いて出していただけると、受刑者さんもお安心されるかと思えます。
- 沢山の受刑者さんが文通を楽しみに待っておられます。数人と文通できる方を大募集しております！

受刑者さんへ

- 文通相手を追加希望するときは、理由をお書きください。圧倒的に受刑者さんよりボランティアさんの人数が少ないため、お時間がかかることをご了承いただけますと幸いです。
- 文通ボランティアの方と文通をして自分がどのように変わったか、どんな気づきがあったかを教えてください。MLP係までお手紙お待ちしております。

皆様、お手数ですが、ご理解とご協力の程よろしくお願ひいたします。

塀の中のたより

「更生とは」に答えて

〇刑 怪人百面相（極黒のベネフィ）さん

初投稿します。私はゆるい多重人格者で、病名はつきませんが、数え上げたら人格が100個にいくことからこの名前にしました。

私、ベネフィはバランス感覚の人で、信念は終わり良ければ全て良しです。泥沼根性のベネフィです。ちなみに、体は男性ですが、ほとんどが女性人格です。ややこしくてすみません。

私が思うに、更生とは再犯しない状態を維持している状態、と考えます。そのためには、自分が幸せになることが必要だと思っています。そして、悪い方に流されそうになったら早めに違う方向へ方向転換してやることです。この2つが重要であると考えます。

確かに表向きは反省しているそぶりも必要でしょうが、ずっと自分を律し続けているとスト

受刑者からの手紙

受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙を紹介します。



スがかかります。ストレスがかかり過ぎると、それを無理に発散しようとぶっ飛んだ刺激を求めたり、堪えきれずに爆発することもあるでしょう。そうならないように、日頃から適切な方法でストレスを発散することをオススメします。

また、自分を支えてくれる周りの人の存在も重要でしょう。しかし、現状そういう人ばかりでなく、自分を非難してくる人も多いかと思えます。そんな時、自分だけでも自分を信じてあげるのが必要だと思えます。

初投稿で偉そうなことを書いてしまつてすみません。ドクターKさんの迷いが少しでも晴れることを祈っています。

個性について

きりさん

たより4月号に掲載のエンポリオ・イワンコフさんの投稿「一つの個性」についてですが、全くそのとおりだと思いました。そして、「そんな事」で片付けられてしまうほど無関心な扱いをされることは多いです。

私も同じ症状に加えて、記憶をとどめられない状態になることがあります。精神科の治療やカウンセリングはやらないということとで終わります。そうした原因にストレスがあれば、そのストレスの元になりそうな考え方も「そんな事が何で気になるのか」と。そういうことはありますね。人によって気になること、その程度の差、感じ方の差というのは十人十色であるのに、そうした考えが見られないわけです。

親であれ、学校の先生であれ、教える方の言うことというのは、それを受けとる側からすれば、それを見做うものとしてとらえるものです。

もちろん、教わったことに疑問を持つこともあります。また、教える側とすれば、言っていることと、やっていることが違っても立つ瀬もありませんし、受けとる側の信用・信頼も得られないことと思います。

自分ができないことを人にやらせるのであれば、相手からすれば馬鹿ではないか、なにを言っているのか、ということとです。そんな人の言うことなど聞き入れる気にならないでしょう。私自身が誰かに教えるにしても自分のことはさておき物申すのは自分でも阿呆だと思えますし、恥ずかし

受刑者からの手紙

受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙 - つづき -



いことですが、「人の気持ちを考える」と言いながら施設はそうではないことが多いというのは生活をしていて思うことではありません。

「キリストの光」を読んでいて、そのなかの一節に、「他人に損をさせるよりも損をする方がましだ」ということについて教えがありました。が、年初に受けた罰を振りかえっても全くそう思えません。自分の罰が1人で済まない可能性があったことを思うと、巻き込むことなく1人で済むことになったので有難いことだと感じました。

まあ仮に1人じゃ済まなさそうでも、自分のせいでキツカケが生じたのですから全面的に被ってしまうつもりでしたが。何であつても1人で引き受けて他が助かるのなら、人の役に立っているのですから、自分が悪いで済ませる価値はありますね。過去にも様々に、それこそ社会も含めればきつと多くのことで、今思えばムダに損をしている貧乏くじを引いたようなこともあるのかもしれませんが、自分以外に累が及ばなかったのですから良かったと思えます。大して役に立ってない人間だったわけです。どんな形でも役立てる人間だと、自分自身も救われますね。

「刑期一年を切って」への回答

Y刑 裕鴨さん

2023年10月号「塀の中のたより」から、「刑期一年を切って 少刑 M塾はるかさん」への返信を書かせて頂きたく思い、筆を取りました。私は、服役11年目の37歳男性受刑者です。

- ① 出所までにすべきこと
- ② 出所後にすべきこと

この2点の質問に答えたいと思います。

M塾はるかさんは、どのような人間になりたいですか？そして、死ぬまでにやりたいことはなんですか？この2つの問いに対して時間をかけてノートに書き出して見ませんか？自分がどのような人間なのかが見えてくると思います。

刑務所では、刑務官の評価や価値観が絶対的なもののように見えてきがちかと思えます。親の価値観、社会の常識、他人の評価、他人の言うこと、その全てを聞かなくて欲しいです。自分勝手にわがままになれ！と言っていいわけではありません。

「自分が本当にしたいことはなにか」

「自分が本当に正しいと思うことは何か」

これらは自分で答えを出し、失敗しながら確立していくものだと思っています。迷い、戸惑い、悩み、不安になりながらも出した答えを大切にして欲しいです。評価されないかもしれない。失敗するかもしれない。でも、その答えに自信を持ち、人のせいせず、責任を自分でとって、反省をしてください。

自分の出した答えが変わることもあるでしょう。そうしながら、自分の心が揺るがなくなっていくと思います。まずはノートに出来るだけ多く書き出し、その中から重要なものを3つ選びましょう。そしたら、それを実現するための目標を立てて実践するだけ。そういう私も心がブレブレで未熟者です。お互いに頑張りましょうね。M塾はるかさんがより良い人生を送ることが出来るように願っています。

答えを聞くのは簡単です。言われたことを実行するのはラクです。自分で深く考えることは面倒で疲れます。でもそれがとても大切なことだと私は思います。「ヨーその若けーの俺の言うことを聞いてくれー。俺を含め誰の言うことも聞くなよー」と歌にもあります。正解なんてありません。あるのは、自分の出した答えのみ。その答えを正解にするか、しないかも自分だけです。偉そうなことを書き連ねましたが、私も迷いながら、惑いながら、失敗を重ねながらも、今、生活しています。M塾はるかさんに幸あれ！

当事者の事情を汲む仕組み

きりさん

たよりN.O.102の理事長挨拶で、当事者の事情(話)を汲む仕組みができないということについては他国と比べることもあるものの、自国の特性であるようにも思えてきました。家と家の関係性にも似ているでしょうか。御家の存続という仕組みは国外にも昔からありますが、歴史的に見ても日本のその仕組みは、それを守るためならば跡を継ぐ者、嫁がせられる者、つまり現場・当事者の意思は汲まれることがないか少ないというものがあります。

欧米などでは似たようなことがあっても、本人の意思が尊重される傾向がよく見られますし、代案もあつたりします。勿論いやおうなくということも見られはしますが。そうしたことで現場(人)に寄りそうにはどうしたらよいかということについて考えさせられますが、ひとつの障害は当事者とは上下の関係であると捉えられていることがあるのだとも思います。私たちの官との関係だけの限らず、他の分野でもそのように見えます。枠をつくる側が偉いな。刑務官のなかでこれまで数人考え方が違っていてある種尊敬もしましたが、収容者と職員は上下じゃなく平場で立っている場所が違うだけだ、という人たちがいました。その人たちの接し方を思うと、その意識が違いなのかなと思います。

最大の栄光

アフロ犬さん

秋に行われる刑務所最大の祭典「運動会」。ここでの栄光を掴むため、受刑者達は日々のトレーニングに励む。様々な理由で不参加の人も多いが、誰もが自分の工場の優勝を願っている。受刑者にとっては、アスリートの世界選手権に匹敵する一大イベントなのかもしれない。

昨年私達は、その運動会で見事優勝を果たした。約1年間、仲間達と互いに鼓舞しながら努力を続けた結果だった。あの感動は格別だった。正に最高の瞬間だった。あれから一年の月日が流れ、今もまたこの季節がやってきた。受刑者には必ず人の出入りがあり、だからこそ連覇は至難の技だと言われている。当然私達の工場も例外ではなく、主力選手の半分以上が出所してしまった。それでも、私たちは勝利を諦めず信じ続けた。自分の体に鞭を入れ、新たに集いし仲間達と共に準備を進めてきた。

そうして、ようやく手応えを感じ始めた頃、競技種目の発表があり、難題を押し付けられた。昨年他工場を圧倒したパワー系の競技が全て消えて、全体の応援合戦に順位を付けて1〜3位にのみ団体競技の得点を付与するという新しいルールが加わった。悩んだ末に私は一つの決断を下した。競技への出場を1種目に限定し、勝つため

の競技応援を作るため、応援団長を引き受けた。本来、面倒なことは大嫌いだ、仲間と協力して「一致団結」をテーマに単純で迫力ある演目を目指した。人員が少ないうちの工場が勝つためには、強調の和で勝負するしかなかった。途中でコロナで3割が入院し、応援練習も禁じられた。少ない時間でいかにまとめ上げるか？いかに全員のモチベーションを上げて行くのか？そのために自分はどうすべきか・・・応援団はどうすべきなのか？それだけを考え続けた2ヶ月だった。

その間に選手選抜を巡り刑務所特有の人間関係トラブルも発生した。工場全体が満身創痍の状態だった。だけど、その中でも私達は諦めず最後の最後まで努力を続けた。

結果は、応援合戦第1位、総合2連覇の圧勝だった。このメンバーでだからこそ果たせた2連覇の偉業。その一員として歴史に名を刻めたことを私は誇りに思う。残念ながら来年夏に満期出所となるため、3連覇を見届けることはできないが、出所するギリギリまで全力でサポートする覚悟だ。私達を作った応援の伝統を引き継いであとは頼んだぞ！新応援団長よ！そして、2年間共に戦い続けてくれた若きレク係と新しいリーダーズ隊長には深く感謝申し上げたい。さあ、次は共に社会で戦うぞ！



受刑者からの手紙



受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙 - つづき -

私の今の生活

K刑 マコちゃんさん

以前、ある刑務所で刑務官が特別公務員暴行暴行陵虐罪などの罪で送検とのこと。私はその刑務所で何度も務めています、そういった職員はあまり見たことがありませんでした。何でも2025年から「懲役廃止現行法初の刑の変更」があると聞きました。私は詳しいことはわかりませんが、知っている方がいれば教えてください。

私が務めている施設は非常に厳しく、何かあるとすぐ減点、訓戒、本当に大変です。物価上昇の関係か、日用品も値上げばかりで、そしてなぜか報奨金が非常に安くてびっくりしました。

8月号の「たより」でK刑 明石焼きさんが投稿されていた中に、刑務官が小型カメラなどの物を使用されているとのこと。私の施設も夜勤の職員がたまに小型カメラを付けて巡回しています。どこの刑務所でも一部の悪い職員がいるため私たちの生活もしんどくなります。

皆様、辛い時もあります、頑張って一日も早く社会へ戻りましょう。

ちわちわみっほーナー

きっかけ

1 ふとしたことがきっかけで

ある時、教会の礼拝で証を頼まれた。ちょうどその頃、インターネットでブログを始めたばかりで、福音を幅広く伝えるには非常に有効なツールであることを体験していた。そこで、教会の皆さんにぜひブログ伝道を始めるように強く勧めたところ、誰も関心を示してくれず、その場が非常に白けてしまった。

その数日後、「当日はせっかく良い証をしてくださったのに、教会員の反応がまったくなくて申し訳ありません。でも、その晩から私がブログを始めました」というメールをK牧師からいただいた。

しばらくしてK牧師のブログを読んでもみると、Amebaブログ(通称「アメブロ」という月間来訪者数(延べ)7,500万人という日本最大級のブログメディア)の中年層ジャンルで、アクセス数100万台に近い上位ランキングを占め、日本ブログ村(同じような総合ブログサイト)のキリスト教ジャンルでは常にトップ

プを独占していたのでとても驚いた。K牧師にとって私の証が「良いきっかけ」になったことを主に感謝している。

しかし、逆の事例もある。ある知人がたまたまフェイスブックで知り合った外国人から心の悩みを打ち明けられ、親身になって相談に乗っていた。そのうちに、「あなたはとても親切な方で大変助かりました。実は、私のがんの末期で余命数か月です。生涯独身で家族がないため、これまでのお礼として、死んだ時には私の全遺産を受け取っていただきたく、あなたを受取人として指定させていただきました。どうぞ、私に代わって、困っている方々を助けるために使ってください。」と弁護士作成の遺言書を郵送してきた。

これを真に受けた知人は、その後相手から次々に金銭的な要求を受けるようになったが、何も疑わないでそれに応じているうちに、数千万円も出費してしまっただ。ところが、その相手はプロの国際的ネット詐欺師であり、その遺言書は偽造されたものであった。今では、知人は自宅を売り払い、生活保護を受けて暮らしている。世の中には、この種の「悪いきっかけ」もあふれている。

2 「良いきっかけ」づくりをしよう

物事が大きく進展していくには、なんらかの「きっかけ」がある。その「きっかけ」をどのように受け止めていくかは本人の責任でもある。

「良いきっかけ」と、「悪いきっかけ」とがあるとすると、私たちはつねに「良いきっかけ」を他者に提供するべきではないだろうか。「最高に良いきっかけ」は、言うまでもなく、福音を伝えることにより、人々がキリストを信じて、永遠の命を持つ「神の子」になるように導くことである。



【絵】 光りんさん

私は学生の頃、校門の前で一枚のビラをもらった。ふだんはビラなどは受け取らず無視して通り過ぎていたが、なぜか、その時はふと受け取ってしまった。それは英会話の集会案内であった。そしてまた、ふと参加してみたら、英語のバイブルスタディの集会であった。

宗教にはまったく興味がなかったので、キリストを信じるまでには長い年月がかかったが、あの一枚のビラを受けとらなければ、私はいまだに神を知らずに、人生をむなしくさ迷っていたに違いない。そのビラを配り、私に「良いきっかけ」を与えてくれた方に心から感謝している。

「朝のうちに種を蒔け、夕まで手を休めてはならない。実るのは、これであるか、あれであるか、あるいは二つとも良いのであるか、あなたは知らないからである」

(伝道の書11:6)

「御言葉を宣べ伝えなさい。時が良くても、悪くても、それを励みなさい」

(IIテモテ4:2)

さつき みつお (弁護士)

中谷先生の健康相談窓口

皆さんこんにちは。今年も早いもので間もなく終わろうとしています。皆さん1年間、健康に過ごせましたでしょうか？

大学では、卒業論文の追い込みで学生さんたちは毎日、研究室を訪れています。夏休みは音沙汰もなかったのに（笑）。学生さんもぎりぎりにならないと行動してくだらないようです。前もっての行動が大切だと教育していたつもりですが、どうやら私の教育がよろしくなかったようです（残念）。それでも、私は諦めずに教育し続けていこうと心に決めていきます。めげずに頑張ります。あと数か月で学生さんたちは社会へ旅立っていきます。若者たちに未来は明るくあつて欲しいものです。誰もが幸せな人生を歩んで欲しいと願うばかりです。

厚生労働省は、今年の冬は新型コロナウイルス感染症と季節型インフルエンザが今年の夏を上回る勢いで感染拡大が生じる可能性を示唆しています。皆さんは、インフルエンザの予防接種は終了していますでしょうか？施設間でも差異があるのでしょいかね。

うがいや手洗いを適宜行っていますか？集団生活になりますので、1人が感染してしまうとたちまち感染が拡大してしまいます。どうぞ、皆さん、大変な思いをしなくても済むように予防に努めていただきたいと思います。もちろん予防だけでは感染を防ぐことは難しいのが感染症ではありますが・・・

マスクの着用はされていると思うのですが、そのマスクは布でしょうか？毎日交換できる使い捨てタイプでしょうか？もしも、布が使われている方であれば、洗い替えがあるかと思えます。できましたら、毎日の交換をお勧めしたいです。乾燥させる場所等の制限もあるかと思えますが、できる限り清潔なマスクを着用していただきたいと思います。

インフルエンザの症状・治療についてお話していきたいと思えます。インフルエンザの症状・典型的なものでは、発病は急激で高度の発熱、頭痛、腰痛、筋肉痛、全身倦怠感などの全身症状が現れ、これらの症



状と同時に、あるいはやや遅れて、鼻汁、咽頭痛、咳などの呼吸器症状が現れます。熱は急激に上昇して、第1～3病日目には、体温が38～39度あるいはそれ以上に達した後、諸症状とともに次第に回復し、1週間程度で快方に向かいます。

インフルエンザの治療は、安静にして休養をとることや対症療法のほかに、抗インフルエンザウイルス薬が用いられることもあります。抗インフルエンザウイルス薬としてはA、B両型に有効なノイラミニダーゼ阻害薬のリン酸オセルタミビル（内服）、ザナミビル（粉末吸入）、ラニナミビル（粉末吸入）及びペラミビル（点滴投与）、A型インフルエンザに対して有効なアマンタジン（内服）があります。いずれも発病48時間以内に投与を開始すると効果が高いです。インフルエンザウイルスは、発症する1～2日前から潜伏しつつ増殖を始め、発症後1～3日に増殖のピークに達します。次第にウイルスは減少していきますが、発症してから5～7日後もウイルスはまだ体内に残っているといわれています。

インフルエンザが流行する理由のひとつとして、まだ何も症状が現れていない潜伏期間のときから他の人に感染すること、解熱後も感染力が持続することが挙げられます。そのため、同囚の方がインフルエンザに

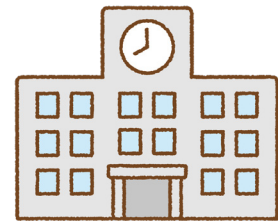
罹った場合は、上記の潜伏期間を参考にしてください。

発熱を感じた際には、担当者に症状を伝え、体温を測るなどの対処をしてください。インフルエンザであれば、新型コロナウイルス感染症同様に対応されると考えられます。感染症の方々が増えるようであれば、基本的には個室管理が望ましいです。しかし、部屋の数にも制限がありますので、大部屋で感染症の方々を集めた管理をすることも考えられます。

この冬も感染症等で苦しむことがなく過ごせますように。良い年を迎えられますように。



研究室からこんにちは！



国立大学法人島根大学 安高 真弓

マザーハウスだよりの読者のみなさま、初めまして。私は、島根県の大学で、社会福祉の専門職養成教育課程の教員をしている安高（あたか）と申します。

このたよりを通じて、「受刑中から出所後の社会復帰を計画するための支援ツール開発に関する研究」でご協力いただきました。ご回答くださったみなさま、ありがとうございました。今回はお詫びとともに、ほんの少し進行状況をお伝えしたいと思います。お詫びしたい点は、二つあります。

一つ目は、ご報告できるまでに時間がかかっていることです。研究者の行う調査は、まとめが終わって論文にし、それが審査を通解して掲載を許され、学会の論文集に載ってからしかご紹介できないのです。

二つ目は、この調査を行うにあたって有期刑の方に意識が集中し、無期刑の方にとってはご回答いただくにあたって心理的負担が大きかったのではないかとということです。配慮が足りず、本当に申し訳ありませんでした。

今回、10名を超える無期刑の方からご回答いただきました。いただいた回答は、きちんとまとめて社会に届けなければと、責任を感じています。貴重なご意見をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。



さて、肝心の調査結果についてですが、調査に回答して下さったのは112名でした。写真はそのファイルです。回答者は40歳台の方が最も多く、80代の方からもご回答いただきました。

「あなたにとっての社会復帰とは？」には110名が、「社会復帰するうえでの不安は？」には、105名が回答してくださいました。書き込みの文字数は、1000字を超える方もおられ、並々ならぬ思いが伝わってきました。今後は、書き込みの内容を質的に分析していきます。

この調査にさきがけ、支援する専門職や研究者にとって「社会復帰」とは、どのようなことを指しているのか、これまで発表された研究論文を調査し、論文にまとめました。こちらは、審査を通過して、12月22日には学会誌に掲載の予定です。この次のマザーハウス便りで、紹介できるかもしれません。

日々の仕事に忙殺されて、分析は遅れていますが、みなさまにご協力いただいた調査結果は必ずまとめます。どうか、お許してください。寒さ厳しき折、どうぞご自愛ください。良いお年を！



返送された調査票のつづり（研究室にて）

福音たより

■カトリック麹町教会（聖イグナチオ才教会）より許可を頂き、ホームページのミサ説教を原文ママ転載させて頂きます。

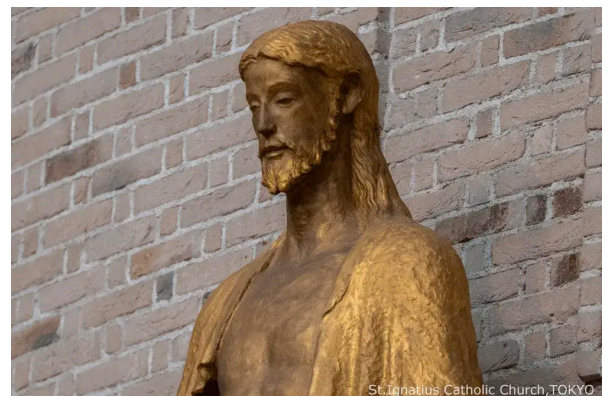
ハビエル・ガラルダ 神父

年間第31主日

人の前に豊かな人間になるよりは、神の前に豊かな人になってみましょう。人に見せるために、人の前に褒められるために、得するために、感謝されるためにするのはすごく楽しいことです。誰だって求めることです、どうしても。見られて褒められる、感謝される。それは嬉しいけれどもむなし。というのは、自分の心の中では、これは嘘だとわかっていてからです。言われますね。「天知る、地知る、我知る」。人に褒められていても、神様も、そして自分の深いところの自分がわかっている。これは嘘だ、これは偽善だ。痛くなるほどむなし。

アルバート・カミュの「転落」という作品がありました。その主人公は誠に評判の良い人でした。若い弁護士で、頭の切れる人で、仕事としても人間としても非常に評判が良かったんです。貧しい人のためにただで仕事をしたりして、いつも優しい、いつも心の良い素晴らしい

人間だと思われていたけれども、彼は心の底で非常に悩んでいました。その評判についていけないとわかっているから。嘘だとわかっていたんです。矛盾ですよ。すべては偽善です。すべてのことは褒められるためです。しかも、ひどいことをしたのに後悔しなかった。誰にも言っていない。ですから嬉しいけれどもむなし。



St. Ignatius Catholic Church, TOKYO

それとは反対に、神の前に偉い人になるのは本物です。それを狙いましょう。マタイ6章にイエス・キリストが仰る言葉ですが、「あなたが祈る時にも、施しをする時にも、断食をする時にも、隠れたところにおられる神に向かつてしなさい。そして隠れたところにおられる神が、隠れた行いをするあなたに報いてくださるであろう」。これですね。しかしマタイ5章では、イエス・キリストはこれにちょっと見れば反対の言葉を仰ることもあります。「自分の光を人の前に輝かせなさい」と言っています。これは前のと矛盾してるんじゃないですかと思われるけれども違います。ですから、私たちは偉い人になってみるのは素晴らしいことです。時々カトリックは、謙遜で



あればいい、目立たないようにしていればいい、と。それは嘘ですよ。向上心が必要です。自分の光を人の前に輝かせなさい。偉い人になりなさい、自分なりに。

ところが何が違うかというと、神の前に偉い人になるとは何かというと、違うのは目的と姿勢です。何のために偉い人になりなさいと言われるかというと、それは仕えられるためではなくて仕えるためである。人に仕えることができるために偉い人になりなさい。役立つ人になることができるために、偉い人になってみなさい。自分の才能を全部実行してください。自己実現しなさい。目的は違う。自分が褒められるためではなくて、みんなが

私の良い行いを見て、私の光の輝かしを見て、神を仰ぎ見ることができるとです。神に近寄るために、あなたは良いことをしなさい。あなたの良い行いを見る人は、神を仰ぎ見る、神に近寄ることになるのです。そのために良いことをしなさい。自分が褒められるためではなくて。

しかも考えてみれば、光を輝かせなさいと言われるけれども、みんなが光を見ないんですね。眩しくて。地面を見ている。地面を、道を見ている。光を利用して、照らしてくださる道を歩いている。光を褒められない。でも、その人が仕えると助かる。仕えられる。助かる。歩くことができるためです。ですから1つは目的が違う。人の前にするのか、神の前にするのか、目的は違う。

もう1つは姿勢も違う。ですから人を見下さないで、威張らないで、謙遜に目立ちなさい。謙遜に偉い人になりなさい。結局、稲穂のようになればいい。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」、素晴らしい俳句ですね。実るほど頭を垂れる。豊かさの上で謙遜になります。本当の価値のある人は、その豊かさの重さの上で自然に頭が下がる。わざわざ謙遜になろうとしないで、その重さの上で自然に謙遜になります。イエス・キリストはこの俳句を知っていたならば「こうだ、これだ、これだ」と言ったでしょう。その謙遜がいいですね。無理しないで自然に豊かさの上で。それとは反対に実らない稲穂は、ビヨーンとそびえて偉そうなことを言っんですね。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」。では、私たちは人の前に偉い人になるよりは、神の前に偉い人になることを願います。

高祖 敏明 神父 結婚感謝ミサ

本日は結婚感謝ミサを捧げております。結婚50周年を迎えられた金祝の皆様、25周年を迎えられた銀祝の皆様、おめでとうございます。

本日の聖書朗読は通常の朗読をいたしております。直接に結婚がテーマになっているとか、金祝や銀祝に言及はしておりませんが、いろいろなメッセージをそこから読み取ることができると思います。第一朗読は出エジプト記からでした。皆さんが持つていらっしゃる聖書と典礼の、聖書の下の方に各朗読の要点が太字



で書いてあります。出エジプト記のところでは「あなたが寡婦や孤児を苦しめる場合は、わたしの怒りは燃え上がる」と書いてあります。隣人、特に貧しい立場に置かれている人への配慮、心配りを大事にするようにと私たちに問いかけています。私たち一人ひとりの生き方、ご夫婦、ご家族の生き方、あるいは教会共

同体の生き方に関わるものであります。第二朗読のテサロニケの教会への手紙につきましても、「あなたがたは偶像から離れて神に立ち返り、御子が来られるのを待ち望むようになった」と書いてあります。これも私たち一人ひとりの生き方、ご夫婦、ご家族の生き方、共同体の生き方に関わるもので、私たちに問いかけるものでもあります。先ほど私が読み上げましたマタイの福音書、そこには「あなたの神である主を愛しなさい。隣人を自分のように愛しなさい」という第一の掟、第二の掟ということで説明されたものがここで太字で書かれています。

皆様もお聞きになったことがあると思いますけれども、掟の順序、信仰の教理的理解の順序では第一の掟、第二の掟という順番で行くんですけれども、私たちの毎日の生活の実践では、第二から第一に行くんだと言われています。私たちが周囲の人々とどういった関わりをもっているかということが、そのまま裏返しになって神様との関わりにこれが反映しているということです。結婚されて家庭を持ちますと、自分の妻がまさに隣人であり、自分の夫がまさに隣人であります。そして夫婦が一体として、それぞれの親がまた隣人であり、子どもに恵まれば子どもも隣人となります。生活の現実では様々な問題や悩み、また挑戦が続く生活ですけれども、その中でいかに生きるかということ、25年、50年と積み重ねてこられた方々が今日ここにいらっしやると思います。

皆さんは新井満さんという方を「存じでしようか。最近の若い人に聞くと知らないと言っんですよね。だから『千の風になって』というのは知ってる?」と聞くと、たいていこれは知ってるんです。英語の詩からこれを日本語に訳して曲をつけた方です。そしてこの新井満さん、私とほぼ同世代で、同じ頃上智大学で学んでいて、その頃は知らなかったんですけれども、彼が有名になってから知り合いになりました。今から20年前、2004年に「祝婚歌」、結婚を祝す歌という詩を書いています。その冒頭のところにこんな言葉を書いています。20年前ですから66億、今でしたら80億ですけれども、「この地球上に66億の人類。33億の女、33億の男。その中のたった一人の女と、たった一人の男が出会ってしまった。これは奇跡だ。と同時に運命でもある。」という書き出しで、ずっと結婚を祝す歌を書いています。日本には古来、赤い糸伝説がありますし、お二人の出会いを見ると、これはまさに運命的な出会いであった。もつと言えば、神様が出会わせてくださり、神様が結び合わせてくださったというふうに思う、そういう時がこの出会いの場であったかもしれない。今日、銀祝、金祝を祝われる皆さんも、あるいはここにいらっしやる皆さんも、結婚に至る出会い、結婚を決意した時のその思いを、改めて心に思い返してみるのも、今日のミサを捧げるのに非常にふさわしいことではないかと思えます。

教会は結婚も司祭職や修道生活と同じように、召命、ボケーションと捉えています。7つの秘跡、洗礼とかミサとか告解とか、叙階もありますけれども、結婚というのも7つの秘跡の一つに位置付けています。秘跡、神の恵みの見えるしるし。結婚というのがそれほど人間にとって、人類にとつて、教会にとつても、あるいは神様からの目から見ても大事なものだということだと思えます。主キリストと、その体である教会との愛の交わりをこの世界で体現する尊いもの、それが結婚だと。皆さんはそれを生きておられる。先ほどの新井満さんは、そのご自分の祝婚歌を説明する時にこんなことも言っています。「結婚というのは、夫と妻の二人で地図のない旅に出るようなものだ。一緒に自分たちの物語、自分たちらしい物語を紡いでいく。家族も増えていく中で、小説にもなるような物語を紡いでいく。もちろんそこではまっすぐな道だけではなく、曲がった道もあれば坂道もある。泥道もある。がけっぶちの道もある。道は険しい。地図はない。そういう旅をずっとしている。」



St. Ignatius Catholic Church, TOKYO

皆さんはいろいろな波風があつたにしても、隣人としての夫を、隣人としての妻を大切にし、夫婦が一緒になつていろいろな意味の隣人を大切にする生き方に努め、よきサマリア人のたとえを借りますと、自らが相手の隣人になつていく生き方に努めながら、今日のこの喜びの日を迎えられているかと思ひます。後ほどバチカンから届いております祝福記念証書をお渡しいたします。これは50年、25年と結婚への召命を生きてこられたことへの証の書でありますし、祝福のしるし、勲章でもありません。秘跡に基づくこの召命を生き抜いて、父と子と聖霊の交わりの夫婦版、家庭版、家族版をさらに深めていくようにとの期待を込めた文書であり、励ましの文書でもあります。

今日のこの喜びの日を迎えられたことを改めてお祝い申し上げます。と同時にわたしたち教会共同体にとりまして大きな喜びでありますし、イグナチオ教会といたしましても皆さまを祝福申し上げます。本当にお願いしたいと思います。これかめどうぞございます。これからも健康に恵まれ、良き隣人として祝福された人生を歩まれますよう、心を合わせて皆でお祈りしたいと思います。



ハビエル・ガラルダ神父 王であるキリストの祭日

非常に大切で中心的な福音です。最後の審判。王であるキリストが、天使たちをみな従えて栄光の座につく。何か一見ではものものしくて怖いくらい。しかも審判のために来ますので、若者の言葉で言えば「やばい」。これはやばいです。でも、これは結局は私たちの人生の評価ですね。人生の評価、今からそれを考えればいい。

評価するために何かの基準が必要ですね。では、イエス様は何を基準にして私たちの人生を評価してくださるでしょうか。それは当たり前です。キリストの掟です。「互いに愛し合いなさい。これが私の掟である」。この掟こそ基準になります。あなたを必要としていた人に対しては何をしたんですか。無視したんですか、それともできるだけのことをしたんですか。それです。これは基準になります。しかもこの試験には一問だけしかないんですね。一つだけ。

でも私たちはミサにも来てましたし、洗礼も受けました。はいはい、それはよろしい。大変よろしい。けれども人を大切にしたらどうか。あなたを必要としていた人に対してどういう態度をとったんですか。それだけ知りたい。それを知っていればあとは全部わかります。先生

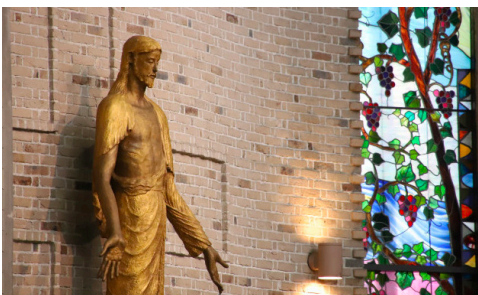
は試験の時にはできるだけこのような質問を選びますね。この問題に対して生徒が正解、正しいことを答えれば、全部わかっていると認めてもいい。これがわからなかったら何にもわかっていない、ということになります。このような質問です。愛し合いなさい、ということですが、しかもこの質問はもうすでに発表していますね。だからもう準備しておいていいです。

そして考えてみれば、あなたが悪いことをしたかどうかということよりも、あなたがすべき良いことをしたかどうかという質問ですね。悪いことをしたということはもちろんいけないけれども、それだけではなくて、すべき良いことをしたかどうか。善を行わないのは悪を行うことになります。考えてみれば厳しいですね。ですからあなたは人と分かち合いをしたかどうか、あなたのお金と食べ物と友情と時間など、分かち合いましたかどうか。赦しましたか。その人が赦しを必要としていた時に、あなたは赦しましたか。譲りましたか。話し合いましたか。厳しい質問ですね。善いサマリヤ人のたとえ話もそうですね。一番目と二番目の人は悪いことをしていない。ただ、良いことをしなかったから問われるのです。すべきことをしたかどうか。

そして最後に、その基準にはこの特徴があります。「この人たちに、最も小さな人々のためにしたことは、つまり私のためにしてくれたのである」。これは大きいです

ね。これで明るくなります。ものものしいところがすぐく明るくなります。厳しい王様と思われた方は、結局愛してくださる神様です。愛に満ちる王様です。というのは、その人に良いことをしたら私がその人の喜びを感じ、その人に対して良いことをしなければ、私はその人の寂しさと苦しみを感じます。愛によって一緒になっているのです、相手のことを外から見るとはなくて、相手の喜びと苦しみを自分で感じるほどです。

たとえば中学生の女の子がちょっとけがして入院しているときですね。お母さんは隣に座っていて、友達が来るんです。娘と仲良く、喜んで笑っているんです。そのお母さんはわかっています。この子は私のために来ていないんです。娘のためです。でも娘の喜びを見て私が喜びます。娘の喜びは私の喜びになります。愛によって一緒になっているのです。このことですね。イエス・キリストはそう言うんです。ですから厳しい、やばいではなく、憐れみ深い王様、この世の中で悩んでいる一人でも多くの人間がいやされることを本気で望んでいる神様、王様です。この王様を誇りに思って、私たちもキリストのように、キリストとともに生きることが願い求めましょう。



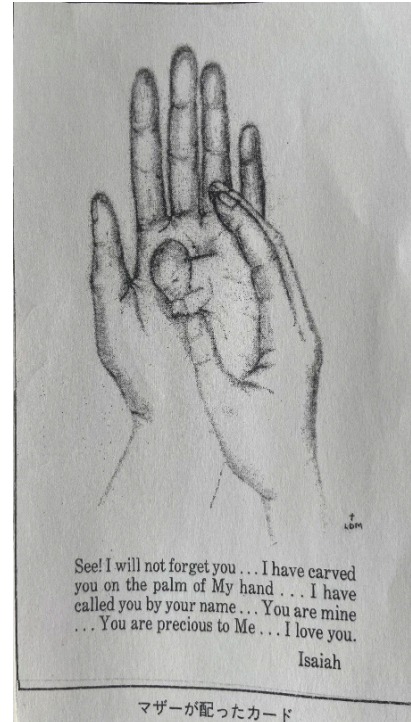
HAPPY DAYS

あまりにも辛い試練に笑うこともできなくて胸が張り裂けそうになった時、神様にこう祈りました。「なんでこんな目に合わなければならないの…！生まれてこなければよかった、地球なんかなくなってしまう方がいい！！」

その次の日、あるシスターからお手紙が届きました。それは心温まる内容でした。マザーが配ったという御言葉のカードも入っていました。

「見よ、わたしがあなたをわすれることはない。わたしはあなたを、私の手のひらに刻んだ。わたしはあなたを、あなたの名前と呼ぶ。あなたはわたしのものである。あなたはわたしにとってかけがいのないものである。わたしはあなたを愛している。イザヤ書」

それを読んで号泣しました。そのカードは壁に飾り、今も私の心の支えになっています。



*育児日記とラブリー DAY は HAPPY DAYS として新たにスタートいたしました。



絵：光りんさん

光りん

受刑者の皆さんへお知らせ

- 移送・出所される方は必ずご一報下さい。MLP（文通）に参加している方は文通相手へのお手紙のみ出して頂ければ大丈夫です（差出人欄の住所で確認できるため）。
- お問合せが多い内容（例：文通相手の追加を希望したのにまだ決まっていない等）は、返信にかえてお知らせ欄で回答させて頂くことがあります。毎月ご確認頂くようお願い致します。
- MLP ペア決め現状：文通相手のいない受刑者を優先しておりますが、4か月以上お返事が届いていない受刑者の方は文通相手の追加を承りますので、「文通担当」宛にお手紙お出し下さい（お時間かかる場合があります）。
- 冊子 NEXT は寄贈終了、サインズは休刊に伴い、たよりへの同封が終了しました。
- フランシスコ事業部は、会費を全額納付された方のみのご利用となります。フランシスコ事業部を利用しない方は、会費の分納が可能です。なお、マザーハウスに送られた切手やお金は返還できません。あらかじめ資料をよく読み、計画的に送られるよう何卒お願い致します。
- 会費やフランシスコの費用を切手で納める場合（84 円以上の切手のみ使用可）は、1 枚につき現金交換手数料 10 円がかかります。※郵便局の価格改訂に伴い、4 月から手数料が 1 枚 5 円から 10 円に変更になりました。
（例）100 円切手× 5 枚の場合：
500 円－手数料 10 円× 5 枚分 =
受領額 450 円
- 下記に当てはまる場合は、事務局までお知らせ頂きたく、宜しくお願い致します。
 - ・ 突然たよりが送られなくなった。
 - ・ 刑期（出所日）が変更になった。
 - ・ 入会申込書もしくは会費を送ってから 2 ヶ月が経過してもマザーハウスから何も届かない。
 - ・ 聖書（寄贈された中古のものです）の送付を希望する（送料 800 円分が必要です）。
- たよりでは、投稿文以外の普段のお手紙から抜粋して掲載することがあります（受刑者の皆さんは、入会申込書に同意欄があります）ので、「掲載してほしくない」というお手紙・絵画につきましては、都度「掲載不可」と明記して頂きたく、宜しくお願い致します。

編集後記 by 編集局

2023 年も残りわずかですね。皆さまにとってどんな一年でしたでしょうか？私は忙しくも充実した一年でした！今年もマザーハウスたよりを読んでくださりありがとうございました。皆さま良いお年をお迎えください。



マリアコーヒー (ルワンダ・コーヒー)



製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

コーヒー (粉) 200g …1188 円 (税込)

コーヒー (豆) 200g …1188 円 (税込)

カフェドリップ 10g (1 杯分) …128 円 (税込)

継続して購入・販売してくださっている皆様 (順不同)

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会／カトリック浜松教会／カトリック東山教会／カトリック布池教会／カトリック菊名教会／カトリック中和田教会／カトリック新子安教会／カトリック碑文谷教会／カトリック桃山教会 (平和環境部)／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／カトリック太田教会／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／カトリック多治見教会／カトリック芦屋教会／カトリック鷺ノ宮教会／カトリック松戸教会／ドン・ボスコ社／クリスト・ロア宣教修道女会／日本カトリック神学院／聖母訪問会

ルワンダの祈り



ルワンダでは、1994 年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残酷な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

マリアの紅茶



オーガニック
純スリランカ産セイロンティー

50g (2g 入り 25 袋) … 864 円 (税込)

マリアコーヒー & マリアの紅茶のご注文はウェブサイト・メール・FAXにて承っております。

FAX : 03-6659-5270



ご注文・ご支援詳細

ラウレンシオ (便利屋業)

元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、掃除などをさせていただきます。お見積りは無料です。

*2020 年 12 月より、株式会社ルツに移行しました。

TEL : 03-6659-2110

FAX : 03-6659-2180

メール : info@ruth-llc.co.jp

古本募金 (きしゃぼん)

書籍やDVDを下記にご寄付頂くと、マザーハウスに還元されます。

送り先 :

〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916

マザーハウス きしゃぼん係

TEL : 0120-29-7000

* マザーハウス事務所への送付はご遠慮ください。

獄中 POST シリーズ

引き継ぎ作業中のため、一時的に活動を中止しております。再開次第お知らせ致します。

ご支援

正会員(一口5000円/年) 賛助会員(一口3000円)
社会復帰支援(ご寄付)を随時募集しております。

振込口座名 : トクヒ) マザーハウス

郵便振替口 : 00170-0-586722

みずほ銀行 : 新宿支店 普通口座 2376980

*info@motherhouse-jp.org 宛に内訳をご送付願います。

洋服等の物資の送付先 :

〒130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-18-1F

マザーハウス TEL : 03-6659-2110

随時ボランティアの方を募集しております。

TEL : 03-6659-5260

メール : info@motherhouse-jp.org

マザーハウスたより 2023年12月号

発行日 : 2023年12月15日 発行責任者 : 原田 昇

〒130-0024 墨田区菊川 1-16-18-3F NPO 法人マザーハウス